

2023年6月11日(日)

老球の細道735号

徒然なるままにトピック

会津バスケットボール協会 室井 富仁

【会津出身上杉翔氏、B1 レバンガ北海道のアシスタントコーチに就任】

現在会津地区出身でBリーグに関係する人材は3人いる。3人しかいない。審判の芳賀聡氏(S級レフリー、前県審判長)、プレイヤーではB3東京Uに所属の川島蓮氏(若松商業、白鷗大学)、そしてコーチではレバンガ北海道の上杉翔氏(坂下、拓殖大)である。

上杉氏は坂下高校2年時から福島県選抜チームのセンターとして活躍した。拓殖大学時代は名将池内監督に才能を認められ1年時からレギュラーで出場。4年時はインカレ準優勝の成績を残し、インカレのプログラム表紙を飾る5人のうちの1人に選ばれた。

大学卒業後Bリーグ選手として、宇都宮、北海道、信州、山形でプレイ。2021年に選手を引退しB2香川ファイブアローズのアシスタントコーチに就任し2シーズン活動した。今シーズン縁あって古巣の北海道から誘いの声がかかりアシスタントコーチに就任した。

【仙台明成高校監督佐藤久夫氏逝去】

坂下高校で上杉氏の指導に当たっていた頃、旧公認コーチ制度で最高レベルの「日本体育協会上級コーチ」講習会を受講した。その講習会には、能代工業加藤三彦氏、早稲田大学倉石平氏、そして当時仙台高校の佐藤久夫氏などビックネームの指導者が参集していた。名もない、お金もない、実力もない私などは肩身の狭い思いをしながら受講していた。

佐藤氏とは原町高校コーチ時代に練習試合で知り合い、その後会津高校時代にも仙台高校との練習試合でお世話になったので面識はあった。佐藤氏はこの講習会でも圧倒的な存在感を示し、講師などは佐藤氏に気を使いながら指導していた。この後仙台高校を退職し、日本バスケットボール協会ジュニア指導、そして明成高校とキャリアを変えていった。

月刊バスケットボール6月号の佐藤氏のコラム『視点』に、遠征試合中に首の周りが痛くなり、歩けなくなって車いすで指導している写真が掲載されていた。その後ブロック注射を打ちながら毎日痛みを耐えて指導して、シーズンが始まる時、選手と一緒にダッシュできないことを悔やんでいたようである。名将がまた一人早逝した。合掌。

【2022年度U-14 ナショナル育成キャンプ、ジュニアユースアカデミー練習雑感】

4月に「JBA公認指導者メールニュースVol57」で送信されて来たユース世代のキャンプ練習をようやく見終えることができた。この行事はそもそも前述の佐藤久夫氏がJBAのユース世代指導を担当していた時の「エンデバー制度」が元になって現在につながっている。

主に中学2年生が中心になっているが、日本全国から集められた逸材ばかりなので、技術、プレイ等はびっくりするくらい上手である。しかし、練習に対する取り組み方で指導者に注意されていることは私たちの指導と同じであった。ライブ練習はリバウンドまでがなげること。同じ人とばかりマッチアップしないで色々な人と勝負すること。大きな声でコミュニケーションを図ることなどである。残念ながら会津地区からの参加はいなかった。